

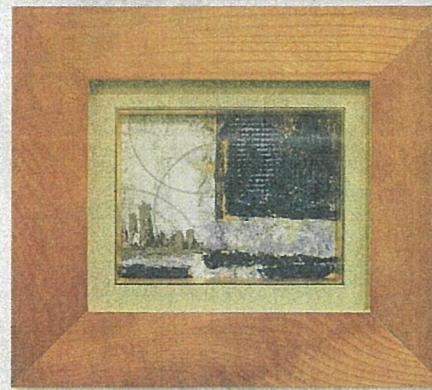
▶「春の調べ」満井健一



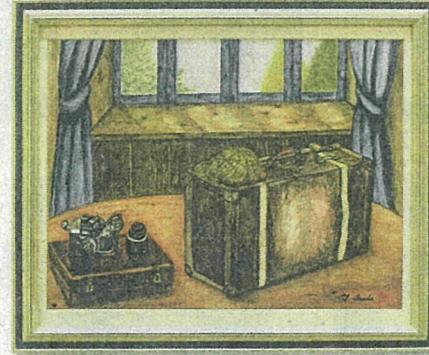
むが 第32回 絵画グループ「夢画」作品展

9月27日から30日まで、生駒市芸術会館美楽来で第32回絵画グループ「夢画」作品展が開催されました。同展は絵画グループ「夢画」が1年間の活動の成果を発表する場として、毎年この時期に開催しているもの。今年も会員14人による力作73点と、会員それぞれが描いたはがき絵が会場を彩りました。普段は生駒市にある鹿ノ台ふれあいホールで月に3回、木曜日に活動している同会。毎月皆さんでモチーフを決め、年に2回はモデルを呼んで人物画を、季節の良い時期には2~3回写生会を行っているそうです。同会には講師がないため、会員同士お互いに教え合い、刺激を受けながら画力を磨いています。特に第3木曜日に行われる合評会では、それぞれが描いた作品を発表し、互いに意見を言い合い、技法を教え合っているので、大変勉強になるそうです。メンバーの一人、満井健二さんは「見るのは好きでしたが描いたことはありませんでした。70の手習いとして夢画に入り、絵画を始めました。描いたことがなかったので心配でしたが、みなさんからアドバイスを受けながら学びました」と言います。また、間所貞夫さんも新しく入会したメンバーの影響を受け、今展で初めてアクリル画を出展されたそうです。32回目を迎える今回の特徴を尋ねると「各自が絵に対する自分のスタイルを確立しているのが感じられます」と話してくださいました。今展会期中に訪れた人は総勢約600人。互いに切磋琢磨しながら画力を磨き続ける同会メンバーの作品に、じっくりと見入っていました。

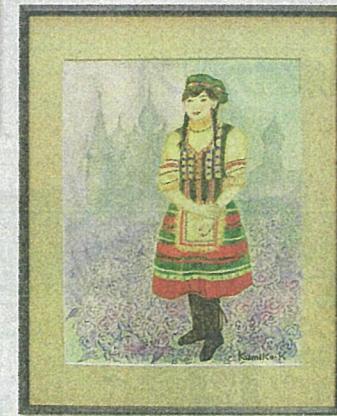
絵画グループ「夢画」 ☎0743-78-7903(FAX兼用) 満井



▲「消えた街」森川恭美



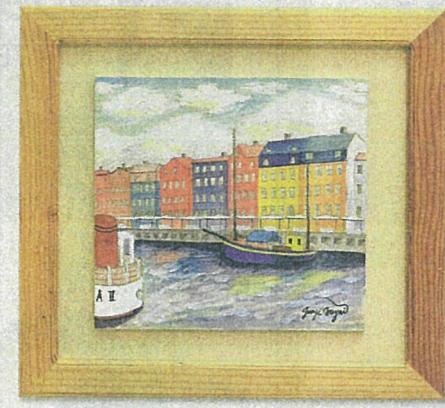
▲「昔の旅を思う」稻田とく子



▲「ロシアの娘」今野久美子



▲「出番5分前」藤田 隆



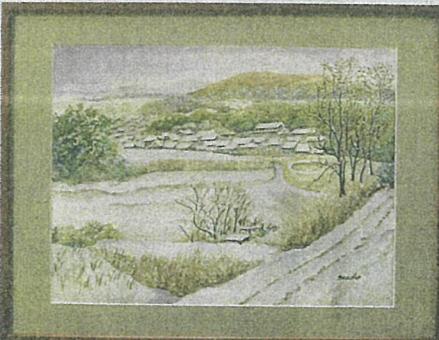
▲「ニューハーフンの港町」宮井淳治



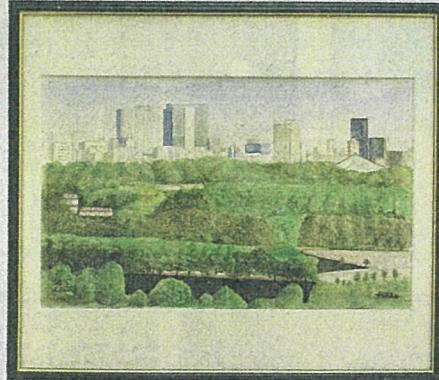
▲「三姉妹」長田和子



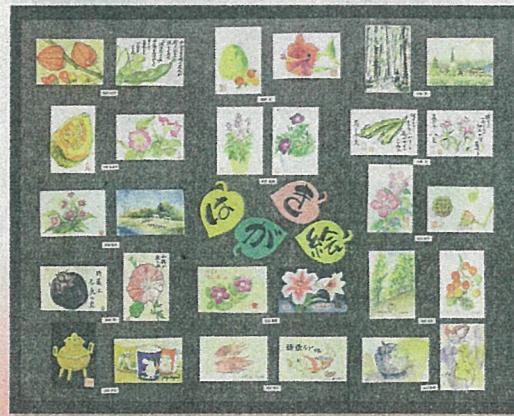
▲「宇陀の又兵衛桜」勝部 進



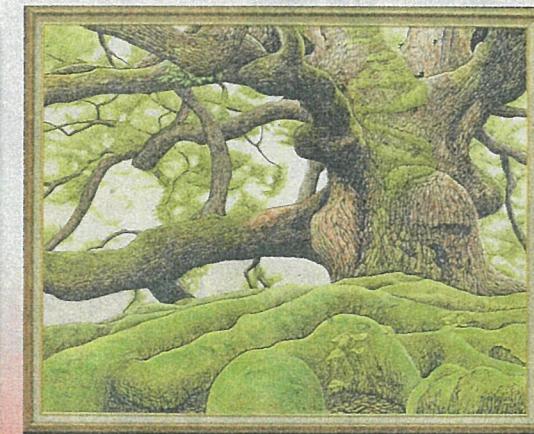
▲「冬の朝」間所貞夫



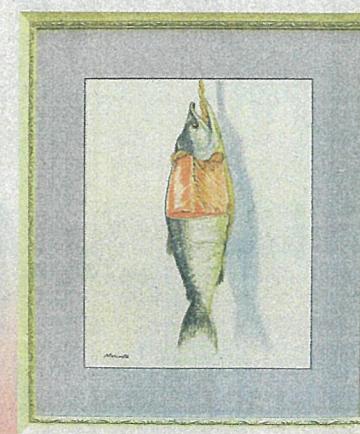
▲「皇居東庭園方面遠望」松江重幸



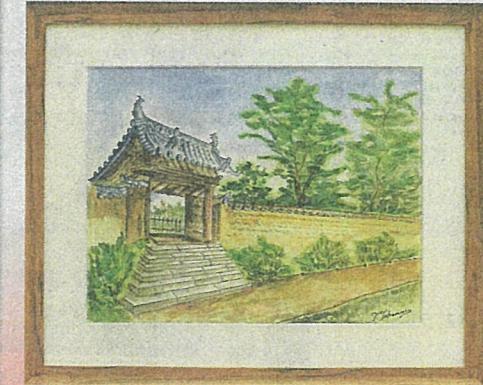
▲メンバー14人によるはがき絵作品



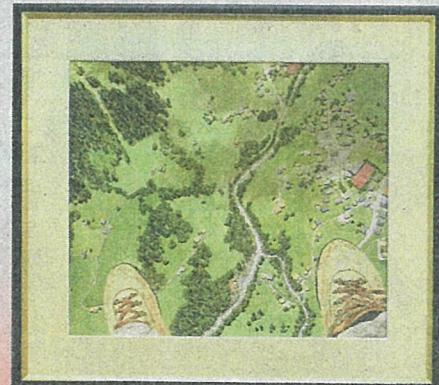
▲「京都 青蓮院門跡の楠」中嶋 力



▲「新巻鮭」西元裕子



▲「唐招提寺本坊」高村敏彦



▲「高いの好き」小西 勇